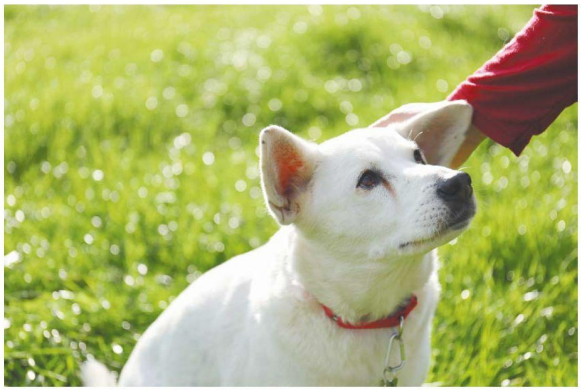
特集

分かり合えたなら

ドッグトレーナー　斉藤喜美子

一緒に暮らしていく時間が、
人にも犬にも、幸せなものであるように。
相手を知ることが、幸せへの一歩。

久保慧栞＝取材
河上展儀＝写真



人と犬、似ているけれど

犬は、人間の1～10万倍から1億倍もの嗅覚を持つ「鼻やり犬」などを駆使して、周りの情報を読み取っています。人間は、主に視覚や言葉を使います。犬の武器は、強い歯。何ということでしょう。先祖はオオカミです。

一緒に暮らすとよく分かりますが、時に人間臭く感じるほど、犬には豊かな感情表現があります。うれしいな、嬉だなあ、褒められちゃった、大好き！…わあ、ちょっと怖い…。飼い主は理解しているものでも愛犬が望ましくない行為を教え、しつけてしまうこともあります。知らず知らずのうちによかれと思って。

ドッグトレーナーの斉藤喜美子さんは、家庭犬（いわゆる愛玩犬）のトレーニング、しつけや飼い方指導、ペットに関わる専門家を育てる仕事をしています。目指すのは「犬がより良く行動できて、日本の家庭に合った生活を楽しめること、犬との暮らしは、もっと素晴らしくなるはずです。私たちが、犬の習性から始まり、愛すべき「犬」という存在を、理解しさえいれば、

家族の一員になって

斉藤喜美子さんは「家族で乳牛の放牧農場を経営しています。お子さん6人、犬3頭に猫たち、さらにトレーナーとして飼い主からも預かることもあるにぎやかな環境です。パンナは元保護犬で、殺処分される寸前の朝に斉藤家へ引き取られました。今ではしつけの講習会でもモデル犬を務めます。犬好きの一十は、子犬の頃、飼い主の飼育放棄で殺処分されそうになり、譲り受けた犬。ボウックのアンナは先天的に聞こえない子。斉藤家のリーダーが手放したところを、斉藤家で一時預かりを経て家族になりました。

高知県では、猫の避妊去勢手術に補助金を出しています。かわいそうだからと避妊手術をしないのは、生まれた命の処分につながり、病気など健康リスクの面からも避けねばなりません。これは犬にも言えることで、小学校での愛護教室でも「不幸な命をつくらないために」と啓発しています。

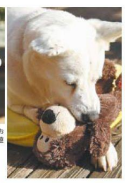
斉藤喜美子さん　子犬のしつけ教室「ふぁーむどぎ。」主宰。家庭犬しつけインストラクター、上級愛玩動物飼養管理士、公益社団法人日本愛玩動物協会高知県支所長を務める。

行動と結果で犬は学ぶ

「まず、犬を知ること」と西洋犬と日本犬の気質の違い、そして個々の気質、育った環境による違い、「習個性があり、二頭たりとも同じ子はいません」と目を合わせたり、正面から近寄る、なでられるのを嫌う犬、逆に誘ってもフレンドリーな犬もいます。本来狩猟をする動物なので、その本能が出ることもあり得ます。健康管理や散歩など、お金も時間も必要。その上で斉藤さんは、終生責任を持って、お互いが幸せに暮らせる飼い方を勧めています。

「犬は、行動をした直後の結果によって学習します。行動と結果はセット。警戒心の強い犬種や日本犬種には、しつけのこぼうびを手から食べないほど緊張するこもあるので、犬の嫌がることをしない、好きなことを伸ばしていくのがしつけの基本です」

リミテッドカラーは引っ張っても途中までしか締まらない安全な首輪

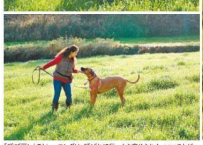


モデルの役が終わると、お気に入りのおもちゃで遊ぶパンナ

タワワは小さくてもゲットウルフと呼ばれるワイルドな犬種。アンクもその誇りある一員です

○問い合わせ
ふぁーむどぎ。こいぬのしつけかた教室
南国市白木谷3100
携帯 090-7577-6037（10:00～17:00）
HP　http://farm-doggy.net
Facebook　ふぁーむどぎ。　こいぬのしつけかた教室

人間とは違う、でも、素晴らしい。



「呼び戻し」のトレーニングは、呼ばれて行ったら褒められた、いいことがあったという学習の積み重ね。これができれば、もしものときも安全です

ニーナは大きいけれど甘えん坊。5歳になってずいぶん落ち着いてきたそうです

愛犬との関係を築く

斉藤さんが20代で初めて自分の犬として飼った犬、ルーシー。当時は人間が群れのリーダーになるトレーニングが一般的で、半年以上続けた頃、突然かまれてショックを受けました。獣医師の勧めで、動物科学的習理論に基づいたトレーニングの勉強に通った斉藤さん。ルーシーがかんだのは、我慢を続けた挙げ句の「やめて」のサインだったのです。関係は良好になり、結婚後も一緒に暮らした素晴らしいパートナー犬でした。「目線からの関係ができていれば、ダメと言われたら分かるようになります。飼い主が何か自分にリクエストしているのだと、言葉の通じない犬に気付いてほしい。飼い主が変われば、犬も変わります。いたずら問題行動を叱って直そうとするより、いいことをしたら褒めてあげて、信頼関係を築いてください」

安心や信頼を基盤にトレーニング

プロの家庭犬トレーナーである斉藤さんは現在、ボランティアで高知県中央小動物管理センターが主催する譲渡犬対象のしつけ方教室講師も務めています。見学させてもらうと、参加している飼い主と愛犬それぞれに、幸せな姿があるのだなあと、温かい気持ちになりました。

犬が危険を感じず、安心してリラックスしていれば、次に飼い主との信頼関係を築き、その上でトレーニングが始まります。

「保護犬の飼い主になる場合は、時間や知識、愛情をしっかり持って、根気よく接する必要があります。最終的にその子が飼い主を信頼できる人間と判断してくれたら、それで十分なんです。人間のペースに合わせて無理をさせず、お互いの生活の質を上げていけたら幸せですよね」

犬はストレスを感じると目をそらしたり、あくびをします。耳とじっぱの状態でも分かります